〈1粒子系の量子からの基本原理〉 多软能心面動肉較 血状態の記述 ある瞬向におけるひとつの粒子の状態を完全に悪わす、 古典方学 (水平)を指定 (1) ド=(x,4,2), ド=(x,4,2) 量子力学 複素数值至23 Ho 函数 PCH 支指定 支郵函数(铁路函数) 少状態は一致」だけを表わすのでもなく、粒子」だけを表わすのでもない、 · S(H)は2乗可積分 (2) Sd3H19(H)2 <∞ ・「すべてのかにすいっというはしのからにはだらにですたいらい · 状態を意すのは タ(・) という 南教全体 Dirac 言と号 状態でのもの(南欧全体)をまれず記号 (4) (Tyl 7,1) おき ベクトルの成分表示。  $V = (V_j)_{j=1,\dots,0}$ 1970年9岁 7 个9份 (二不多岁

## 回状態の重ね合わせ

2つの三段動兵物(4代態) タ(州) 火(州)

d, BEC1=>117 (1) d9(H)+BY(H)专题動南数(铁色)

バクトしと同じ(石だしニニでは無限次元)

回状態の競形独立性

的個的電影的数(铁管)外的,是例,一次的加速形在立

P

 $J_{1}^{*}Z_{1}H_{1}=>112$  (2)  $Q_{1}Y_{1}(H)+Q_{2}Y_{2}(H)+\cdots+Q_{n}Y_{n}(H)=0$  $C_{1}^{*}Z_{1}H_{1}=>112$  (2)  $Q_{1}Y_{1}(H)+Q_{2}Y_{2}(H)+\cdots+Q_{n}Y_{n}(H)=0$ 

3

四进動與数公物理的狀態の文寸記

複素定数 d = 0 が まって すべ 20 K に コロマ (1) タ(オ) = a 4(オ) が成り立つなる。理動的数分的と火御局の物理的状態を表表す。 この天見則が必要な理由は量子力学22~~

四位置の測定

知子の状態が別的のとき、粒子の位置を到像→体多ずで生的1点でみかる。

- ・粒子がみつかる位置はランガム(完全に同じ実験を(り返しても結果なかわる)
- ・ 治子が 11に 21つか13 7曜年を度 (2) P(け) = (定数) 「タイル」と 特に (3) 50211(9(11))2=1 となってはるときは

天見不名人と条件 二のようち タ(水) は 天見居んとろいっている。 (4)  $P(x) = |9(x)|^2$ 

4

多時面発展の Schrödinger 方程式

・時刻のでの生態中しかりの一片の南較

·時刻 t zia sti 是 Y(t, t) — te cana ho po

(時間発展の) Schrödinger 万程立 Y(O,H)から仕意の tでの Y(t,H)をむめる

ω Ji°テンシャルV(け)がる力をうける粒子(V(比)は Hの実数値関数)

(1) 
$$i \pm \frac{3}{3t} \psi(t, |t|) = \left(-\frac{\pm^2}{2m} \Delta + V(tt) \right) \psi(t, |t|)$$

上 古典が  $\frac{|P|^2}{2m} + V(H)$   $(NEND-=P) (エネルギーに文示応する三家な子)を
(2) <math>H = -\frac{t^2}{2m} \Delta + V(H)$  とすると

(2) 
$$H = -\frac{h}{2m} \Delta + V(t)$$
  $\times 32 \times 10^{-10} L$  (3)  $1 + \frac{h}{2} L + V(t, t) = \frac{h}{2m} L + V(t, t)$ 

多定常状態 (エネルギー固有状態) の Schrödinger 示程すり (ロ) はち 是  $Y(t, W) = \hat{H} Y(t, W)$  (2)  $\hat{H} = -\frac{t^2}{2m} \Delta + V(W)$  の 定常状態 定在 取のように (3) Y(t, W) = f(t) Y(t) と分離する解はするか?

血定常状態 定在波のように (3)  $V(t, h) = f(t) \mathcal{P}(h) と分離する解はするか? (3) を (1) に代え → {(4) 左近 = itangle(t) <math>\mathcal{P}(h)$  > = itangle(t)  $\mathcal{P}(h)$  > (5) 右近 =  $\dot{H}$   $\dot$ 

(4)=(5) 
$$C(2)$$
  $E(2)$   $E(4)$   $E(4)$ 

 時间發展のSchrödinger方程式 (ps-(1))の解 (1)  $\Psi(t,H) = e^{-i\xi_t} \mathcal{P}(H)$  6 ・大が変化しても(ドロよるなり)複素数(一一になか、変化するだけ、 中的理的状態は爱化しらい! (1)は定常状態
(P3 m) エネルギーに文献 (I)はエネは、一がEに確定に失態 应定常状態(工术性-固有状態)の Schrödinger 无程式 9(H) (7 ps-18) (3) A 9(H) = E 9(H)  $3 + 9 = 64 - \frac{5^2}{2m} \Delta + V(H) - \frac{5^2}{2m} \Delta + V(H) - \frac{5^2}{2m} \Delta + V(H) - \frac{5^2}{2m} \Delta + \frac{5^2}{2m} \Delta +$ と関数タのかをセットでまるる一直有值问题 (3),(4)が成り立つように 日 工产11年一国有位 エネルギー固有生物

回主意 Eは実数であるべき t=02 (1)  $\int d^3 \mu |\Psi(0,\mu)|^2 = \int d^3 \mu |\Psi(\mu)|^2 = 1$  と天見なん P(-(1) + 1) (2)  $\int d^3 f \left[ \frac{(+(+,+))^2}{2} \right] e^{-i\frac{E}{\hbar}t} \Big|^2 \int d^3 f \left[ \frac{(+(+,+))^2}{2} \right] e^{-i\frac{E}{\hbar}t} \Big|^2 = e^{-i\frac{E}{\hbar}t} \Big|^2 = e^{-i\frac{E}{\hbar}t} \Big|^2$ Im(E)=0つまり巨が実数ででは、現形化が保たいなり、 (3) Hタ(水)=Eタ(水)をみですEが実数に左ろのか、柳理的に正山設定 回るき時間発展のSchrödinger方程式(4) は最ヤ(t, tr)=HY(t, tr)の一般解 (5)  $H' \mathcal{G}_{j}(k) = E_{j} \mathcal{G}_{j}(k) \times G_{3} E_{j}, \mathcal{G}_{j}(k) \times G_{3} E_{j}, \mathcal{G}_{j}(k) \times G_{3} E_{j}, \mathcal{G}_{j}(k) \times G_{3} E_{j}$ (6) e はちろん(4)の解 (4)日额于1502 任意 a d; E C 1= 2112 (7) Y(t, ) = Sid; e 与(h) も(4)の解(東は二小か一般解)